

## 教員の定年後生活 (第3報) —地域社会活動参加—

お茶女大 ○大塚洋子 福島裕子 袖井孝子 共立女大 細江容子  
横浜国際福祉専門 竹田久美子 青葉学園短大 長津美代子

【目的】 定年退職教員は、高齢者の地域社会活動を考える上で、豊富な情報を与える調査対象である。本研究は定年退職教員の地域社会参加活動への参加の促進要因を明らかにするとともに、活動への参加が定年退職教員の態度行動に及ぼす影響をとらえることを目的とした。

【方法】 第1報に同じ

【結果】 ①居住地の人口規模が小さいことが退職教員の活動参加の促進要因となっている。②教員時代の管理職経験は活動参加の促進要因となっている。③定年退職の直後に再就職をした者は引退意識が少ない。④定年退職後の生活に対する考え方と活動の有無は相互規定の関係にある。定年退職後も体の続く限り活動し続けたいと考える者は地域社会活動や就業に積極性を示す。一方、まわりに縛られることなく好きなことをして過ごしたいと考える者は趣味活動への参加などを選ぶ。⑤「地域社会の一員」アイデンティティをもつことと活動参加は相互規定の関係にある。⑥活動参加と地域社会で定年退職後も「先生」と呼ばれることとは相互規定の関係にある。⑦定年退職後の付き合いの多さと活動参加は相互規定の関係にある。⑧活動参加と生活満足は相互規定の関係にある。